

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

猪名川町教育委員会

《調査の目的》

令和7年4月17日（木）に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。
この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- (2) 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

《実施の状況》

- (1) 調査の対象 猪名川町内の小学校第6学年の全児童（6校国語233名、算数・理科232名）
猪名川町内の中学校第3学年の全生徒（2校国語270名、数学270名、理科266名）
- (2) 調査内容 ①教科に関する調査
小学校第6学年・・・国語、算数、理科
中学校第3学年・・・国語、数学、理科
②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

《教科に関する調査について》

【調査結果の見方について】

- (1) 「町平均」の数値は、令和7年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。
- (2) 「全国平均」の数値は、令和6年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小・中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

■小学6年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|----|---------------|----------------|
| 国語 | 62 | 67.0 |
| 算数 | 52 | 58.2 |
| 理科 | 53 | 57.3 |

■中学3年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|----|---------------|----------------|
| 国語 | 54 | 54.3 |
| 数学 | 46 | 48.3 |
| 理科 | 498 (IRTスコア) | 503 (IRTスコア) |

※IRTスコアとは、IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500点を基準値、経年比較が可能な形で算出する。

※IRTとは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。

■小学6年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 62 | 67.0 |
| 学習 指導 要領の 内容 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | 74.7 | 76.9 |
| | 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 | 1 | 57.5 | 63.1 |
| | 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 79.4 | 81.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 3 | 62.8 | 66.3 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 3 | 62.1 | 69.5 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 4 | 52.4 | 57.5 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が最も大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|------------------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 2三 | 【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く | 51.5 | 61.3 | 5.2 | 5.0 |

2三 学習指導要領の内容の「思考力、判断力、表現力等 B 書くこと」に関する事項の問題。評価の観点
は「思考・判断・表現」。(記述式問題) 正答率の差は、-9.8ポイント。

記述式問題で、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題である。詳しく書くという意識はあるものの、必要な2つの条件のうち、一方の条件に偏って記述し、もう一方の条件にあう言葉や文を取り上げることができなかった児童が、26.6%、必要な情報を取り上げられず、自分の考えを書いた児童や、各目的を明確にすることができなかつたり、うまく書き表せなかつたりした児童が15.4%と、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することに課題があると考えられる。

文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にするために、話し合い活動を通して、読み手の立場から「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」を中心にアドバイスし合う場面を設定したり、書いた文章を見せ合い、詳しくする方法を話し合ったりする取り組みが必要である。その際には、詳しくする前後の文章をモデルとして提示する、児童が気づいた方法を教師が価値づけしまとめるといった取り組みも必要である。

②正答率が最も低かった問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|-------|--|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3三(1) | 【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する | 39.9 | 41.0 | 7.3 | 3.4 |

3三(1) 学習指導要領の内容の「思考力、判断力、表現力等 C 読むこと」に関する事項の問題。評価の観点「思考・判断・表現」。(選択式問題) 正答率は、39.9%

正答は③だが、②と回答した児童が32.2%と、正答の39.9%に並ぶ割合であった。②を選択した児童の中には、「人によって言葉の意味の捉え方が違う」ことを、「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料と結びつけようとしたが、必要な情報を整理しきれなかったと考えられる。複数ある情報の中から、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることに課題があると考えられる。

必要な情報を見つけるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結びつくのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報がどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるような取り組みが必要である。

③無解答率が最も高かった記述式の問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|-------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3三(2) | 【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く | 47.2 | 56.3 | 23.2 | 16.2 |

3三(2) 学習指導要領の内容の「思考力、判断力、表現力等 C 読むこと」に関する事項の問題。評価の観点「思考・判断・表現」。(記述式問題)

無解答率は、23.2%である。最終問題であることから、時間が足りなかったことも考えられるが、記述式問題であったことも無回答につながったと考えられる。また、目的、情報ともに捉えることができなかった児童が11.6%いることから、提示された多くの資料から必要な情報を見つけ、整理することに時間がかかったり、そこから情報を再構成して自分の考えをまとめることができなかったりと、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに加えて、文章にして考えをまとめることに課題があると考えられる。

読む目的を明確にし、目的に応じて必要な情報を見つけるためには、複数の資料を結び付けて読む学習を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読む取り組みが必要である。また、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線でつないだりして、どの部分と結びつくのか視覚的に明らかにしながら読む活動に取り組む必要がある。

■小学6年生（算数）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 16 | 52 | 58.2 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と計算 | 8 | 56.9 | 62.3 |
| | B 図形 | 4 | 51.7 | 56.2 |
| | C 測定 | 2 | 49.8 | 54.8 |
| | C 変化と関係 | 3 | 53.0 | 57.5 |
| | D データの活用 | 5 | 56.7 | 62.6 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が最も大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (3) | 数直線上に示された数を分数で書く | 22.4 | 35.0 | 10.8 | 7.8 |

3 (3) 学習指導要領の内容の「A 数と計算」の領域の問題。評価の観点は「知識・技能」。(短答式問題)
正答率の差は、-12.6ポイント。

正答はア： $\frac{1}{3}$ 、イ： $\frac{5}{3}$ または $1\frac{2}{3}$ だが、目盛りの一つ分の大きさを $\frac{1}{10}$ と捉えたり、0から2までが6等

分であるから $\frac{1}{6}$ と捉えたりした誤答が多く、1あたりを何等分しているかに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることに課題があると考えられる。

数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えるためには、0から1までが何等分されているかに着目して、分数の意味や表し方について理解を深める必要がある。さらに、分数と整数との大きさを比較したり、数直線を縦に並べて、分数の大きさを比較したりして、分数の大きさを視覚的に捉え、分数の大きさについての感覚を豊かにする取り組みが必要である。

②正答率が低かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 (2) | 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く | 22.0 | 31.0 | 2.6 | 0.9 |

1 (2) 学習指導要領の内容の「D データの活用」の領域の問題。評価の観点は「思考・判断・表現」。
(記述式問題) 正答率は、22.0%。

正答は、ア(2023年は2013年より出荷量が増えた)を選択し、グラフ3(ブロッコリーの出荷量)に着目して記述できた解答である。正答率は22.0%であった。出荷量が増えたことは捉えられたが、記述ができなかった児童は44.4%、出荷量と出荷量の割合を捉え違えて、出荷量が減ったと答えた児童は27.6%であった。目的に応じて適切にグラフを選択して正しく読み取り、そのことをどのグラフから判断したのか、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題があると考えられる。

目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えるためには、グラフの項目間の関係を読み取る取り組みが必要である。また、複数の資料から、目的に応じたグラフを選択し、グラフのどこに着目したのかを説明する機会を増やし、データの特徴や傾向を捉える学習が必要である。

③無解答率が最も高かった問題

| 問題番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (2) | 3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く | 17.7 | 23.0 | 18.1 | 15.7 |

3 (2) 学習指導要領の内容の「A 数と計算」の領域の問題。評価の観点「思考・判断・表現」。(記述式問題) 無回答率は18.1%

本設問は、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題である。本設問の無回答率は18.1%、また正答率は17.7%で、全国と同様、正答率が最も低く、無回答率が最も高かった問題であった。誤答例は、共通する単位分数にはたどり着いたが、それぞれの分数が共通する単位分数のいくつ分であるかについては記述できていない児童が25.9%、単位分数のいくつ分かを通分で導き出せなかった児童が28.0%であった。分数の計算の手順は覚えていても、分数の意味や表し方、仕組みについては十分に理解しておらず、計算の仕方について統一的、発展的に考察することに課題があると考えられる。

この問題を解くためには、異分数を図に表し、基にする数を視覚的に捉えるようにする。その上で、通分して共通の単位分数を捉え、共通の単位分数のいくつ分であるかを見つける取り組みが必要である。そうすることで、既習の整数の加法に帰着でき、統一的・発展的に考察する活動を取り入れる必要がある。

■小学6年生（理科）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-----------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 17 | 53 | 57.3 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A「エネルギー」を柱とする領域 | 4 | 43.5 | 46.7 |
| | A「粒子」を柱とする領域 | 6 | 49.9 | 51.4 |
| | B「生命」を柱とする領域 | 4 | 44.3 | 52.0 |
| | B「地球」を柱とする領域 | 6 | 62.4 | 66.7 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が最も大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (4) | レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く | 15.5 | 29.4 | 16.4 | 11.4 |

3(4) 学習指導要領の内容の「B「生命」を柱とする領域」の問題。評価の観点は「思考・判断・表現」。
(記述式問題) 正答率の差は、-14.4ポイント。

正答は「レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。」のように、日光または肥料について一つ条件を選び、レタスの発芽に関する問題として記述した解答である。条件に着目できているものの、レタスの発芽に関する問題として適切な表現ができなかった児童が37.9%と正答の2倍以上であった。既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、設問の意図に沿った正しい解答表現をすることに課題があると考えられる。

自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするためには、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場を設定する必要がある。また、自分の考えを表現する際に、誰もが理解できるような言い回しを用いて表現したり、考えた過程が分かるように表現したりする学習に取り組む必要がある。

②正答率が最も低かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 2 (1) | アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ | 7.8 | 10.6 | 2.2 | 0.6 |

2(1) 学習指導要領の内容の「A「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域」の問題。評価の観点は「知識・技能」。(選択式問題) 正答率は、7.8%。

正答は4で、アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、完答できた解答である。正答率は7.8%であった。アルミニウム、鉄、銅について、電気を通さないと解答した児童は78.4%で、電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識が身に付いていないと考えられる。

物質の性質に関する理解を深めるには、学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けた

り、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質についてまとめることが大切である。例えば、第3学年「A(4)磁石の性質」ア(ア)において、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を調べるとき、第3学年「A(5)電気の通り道」ア(イ)での実験の結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理する学習に取り組む必要がある。

③無解答率が高かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 (2) | 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く | 48.7 | 60.5 | 10.3 | 8.5 |

1(2) 学習指導要領の内容の「B「地球」を柱とする領域」の問題。評価の観点「思考・判断・表現」。
(記述式問題) 無回答率は10.3%

本設問は、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【問題に対するまとめ】が提示され、その考えに至った理由を【結果】から読み取る問題である。結果を基に結論を導いた理由を表現することに課題があると考えられる。

観察、実験などの結果を基に、自分の考えを表現するためには、結果を整理し、具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだし、表現することが重要である。表やグラフなどに整理する活動を設け、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できる学習活動に取り組む必要がある。

また、無回答率が最も高かったのは、全国と比べて正答率の差が最も大きかった問題として挙げた3(4)で16.4%、次いで2番目に無回答率が高かったのが、本設問で、10.3%。どちらも記述式問題である。理科の問題において、記述式問題はこの2問であったことから、記述式問題に対して無回答率が高くなることについても課題があると考えられる。

■中学3年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|------------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 54 | 54.3 |
| 学習 指導 要領の 領域等 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | 47.8 | 48.1 |
| | 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 | 0 | | |
| | 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 0 | | |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 4 | 51.0 | 53.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 5 | 52.2 | 52.8 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 3 | 64.8 | 62.3 |

【課題のあった問題】

①無解答率が高かった短答式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|----------------------------------|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 4 ー | 手紙の下書きを見直し、謝って書かれている漢字を見つけて修正する。 | 52.2 | 57.3 | 40.4 | 33.5 |

4ー 国語14問中、無回答率が最も高かった問題。全国と比べて正答率の差は、-5.1ポイント。読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題。回答している59.6%の生徒のうち、52.2%の生徒が正答している。誤答としては、誤って書かれている漢字に気付くことはできたが、正しい漢字を書けていない解答をしていることが最も多かった。伝えようとすることが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導しつつ、学習した「知識及び技能」を活かして文章を整えるよう指導することが大切である。

■中学3年生（数学）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 15 | 46 | 48.3 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と式 | 5 | 39.9 | 43.5 |
| | B 図形 | 4 | 45.7 | 46.5 |
| | C 関数 | 3 | 45.8 | 48.2 |
| | D データの活用 | 3 | 55.8 | 58.6 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 | 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ | 15.9 | 31.8 | 1.9 | 0.7 |

1 全国と比べて最も正答率の差が大きかった問題。正答率の差は、 -15.9 ポイント。素数の意味を理解しているかどうかをみる問題。無回答の生徒を除く 63.3% の生徒が「1が素数に含まれる」と回答している。（全国は 50.0% ）このことから「1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数」という素数の定義を確認するとともに、素因数分解することを通して、素数や整数の性質についての理解を深めることができるようにすることが大切である。

②正答率が低く無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 6 (2) | $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する【記述式】 | 17.8 | 25.7 | 24.1 | 24.9 |

6 (2) 正答率が低く無解答率が高かった記述式の問題。正答率の差は -7.9 ポイント。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題。学習指導に当たっては、式の意味を読み取り、事象の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。

■中学3年生（理科）

【課題のあった問題】※公開問題より

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率（％） | | 無解答率（％） | |
|----------|-------------------------------------|--------|------|---------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 9 (2) | クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する【選択式】 | 50.0 | 58.1 | 0.0 | 0.3 |

9 (2) 全国と比べて最も正答率の差が大きかった問題。正答率の差は-8.1ポイント。気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題。正答を導くには、知識を概念として身に付けておくことが必要となる。そのため、学習指導に当たっては、様々な事象の中から気圧が関係するものを選択したり、気圧を利用している身近な事象を説明したりするが学習場面を設定することが考えられる。その際に、実験等を行い、生徒が気圧を実感できるようにすることが大切である。

②正答率が最も低かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率（％） | | 無解答率（％） | |
|----------|--|--------|------|---------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 9 (1) | 【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する【選択式】 | 24.4 | 31.8 | 0.0 | 0.3 |

9 (1) 正答率が最も低かった問題。正答率は24.4％で正答率の差は-7.4ポイント。気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる問題。正答率から、予想が反映された適切な振り返りを行うために、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題があり、指導の充実が求められる。学習指導に当たっては、自己の考えがどのように変容したか等に着目し、振り返りをする学習場面を設定することが考えられる。その際、探究の各家庭で自己の考えを表現し、必要に応じて多様な視点で自己の考えについて振り返るようにすることが重要である。また、振り返りをグループまたはクラス全体で共有することで、自己の振り返りが深まることが考えられる。

《質問紙調査について》

児童生徒質問紙調査は、調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。小学生71問、中学生70問の質問項目について調査が行われました。

それぞれの調査項目ごとの猪名川町と全国の回答結果の中から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が高かったものから、「良好な結果として捉えられる点」を、肯定的な回答の割合から低かったものから、「猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点」を分析し、以下に挙げています。

【小学6年生・中学3年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・算数、数学の授業の内容はよくわかる。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・人の役に立つ人間になりたい。

【小学6年生・中学3年生】

猪名川町の課題として捉え、今後の改善が求められる点

- ・学校が休みの日に、1日1時間以上、勉強している。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

令和7年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）の結果及び過去数年間の同調査の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・算数では、「データの活用」「測定」の領域に課題がある。[小学校]
- ・理科では、「生命」を柱とする領域に課題がある。[小学校]
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域に課題がある。[中学校]
- ・数学では、「数と式」「データの活用」の領域に課題ある。[中学校]
- ・「学校が休みの日に、1日1時間以上、家庭学習している」児童生徒の割合が低い。[小・中学校]

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善支援。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。
- ・授業力向上や学級づくりのための教員研修の充実。
- ・タブレット端末やICT機器、デジタル教材の効果的な利活用。
- ・基礎・基本の定着。
- ・「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」の推進。
- ・学校支援ボランティアの派遣による児童生徒支援。

■家庭学習

- ・家庭と学校の連携による学習環境の整備。